

# 慢性 C 型肝炎患者における肝細胞癌術後予後と EGF 遺伝子多型・EGF 受容体発現の相関の検討

## ・はじめに

C型肝炎ウイルス感染がある方は時間経過とともに肝臓の線維化が進行し、肝臓の発癌を来します。肝臓に対しては、現在様々な治療法がありますが、当科では手術によって肝臓を含めて肝臓を切除する、手術療法を行っています。肝臓癌は他の臓器の癌に比べ、非常に再発率が高く、術後の生存率が不良な癌種のうちのひとつです。そのため、術後の再発に関与する因子を解明することが肝臓癌術後の成績の向上につながると考えられます。最近の研究では、患者さんの持つ遺伝子の違い(遺伝子多型)によって、それぞれ癌になりやすい、なりにくいなどの特性が報告されています。本研究では、上皮成長因子(Epidermal growth factor; EGF)という因子に注目し、その遺伝子多型がどのような影響を与えるかを解明することが目的です。

## ・対象

九州大学病院 消化器・総合外科(第2外科)においてこれまでに C型肝炎ウイルス感染陽性の肝臓癌の診断で肝切除術を受けられた方(2002年12月1日~2012年3月31日)の切除標本ないし採取した血液のうち、約140名を対象に致します。個人を特定できる情報は全て削除いたしますので、個人が特定できない状態で使用いたします。

## ・研究内容

当科で肝切除された切除標本やその際に採取した血液を使って、遺伝子の発現、血中の濃度などを調べます。この結果と患者さんの背景を比較し、慢性 C型肝炎患者さんで肝臓癌に対して手術をされた方の再発のしやすさにどのように関わっているのか、考察します。

この研究を行うことで患者さんに日常診療以外の余分な負担が生じることはありません。

## ・個人情報の管理について

個人情報漏洩を防ぐため、九州大学大学院医学研究院消化器・総合外科学分野においては、個人を特定できる情報を削除し、匿名化された個人情報と連結を可能にする対応表は作成しません。

また、本研究の実施過程及びその結果の公表（学会や論文等）の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。

・ **研究期間**

研究を行う期間は承認日より 26 年 3 月 31 日まで

・ **医学上の貢献**

本研究により被験者となった患者さんが直接受けることができる利益はありませんが、将来研究成果は肝癌術後再発の予測の一助となり、多くの患者さんの治療と健康に貢献できる可能性が高いと考えます。

・ **研究機関**

九州大学大学院消化器総合外科学分野

教授 前原 喜彦（責任者）

准教授 調 憲

大学院生 吉屋 匠平

連絡先：〒812-8582

福岡市東区馬出 3-1-1

Tel : 092-642-5479 (消化器・総合外科外来) (平日 8:30~17:00)

092-642-5473 (消化器・総合外科病棟) (夜間・休日)

担当：吉屋 匠平